

遊びの時間に観察された笑い声に注目し、ヒトの笑い
と相同と考えられる野生チンパンジーの「笑い声」との
比較を行った。その結果、くすぐりや追いかけっこにお
ける笑い声にはヒトとチンパンジーとで共通点も見ら
れたものの (Matsusaka 2004, Primates 45: 221-229), 他者
の失敗などへの「嘲笑 (攻撃的な笑い)」があることなど、
ヒトに特徴的だと考えられる点が幾つか明らかになった。
この内容は、まず日本子ども学会などにて発表した
のち、さらに笑いの進化について考察を加えた総説論
文を執筆し、学術誌に投稿中である。

年度の後半には、タンザニアのマハレ山塊国立公園
において、野生チンパンジーの野外調査を行った。おも
に未成熟個体を対象として個体追跡を行い、攻撃的行
動や闘争後の行動の発達についてのデータを収集した。
闘争時の悲鳴の起こり方やその後の交渉などにヒトと
の相違点があるという印象を掴んだ。今後、更に詳細に
ヒト幼児との比較を行う予定である。

5-7 チンパンジーにおけるパターン優位効果の検証 後藤和宏 (慶應義塾大)

本研究の目的は、チンパンジーにおけるパターン優
位効果を検証することである。パターン優位効果とは、
ヒトの視覚に関する実験で、右上がり、左上がりの斜め
線分の弁別において、線分だけを弁別する時よりも両
方の刺激に「L」字のコンテキストが付加された時に反
応時間が短くなることをいう。昨年度の共同利用研究
で、すでにチンパンジーでもヒトと同様のパターン優
位効果が見られることが確認された。本年度は、チン
パンジーでもヒトと同様に付加するコンテキストによ
っては優位効果ではなく阻害効果が見られることが明
らになった。

また、これまで斜め線分を弁別要素とする刺激を用
いて実験を行ってきたが、本年度は、さらに4種類の
新しい刺激セットを用意し、パターン優位効果を追試し
た。これらの刺激のうち2種類は斜め線分同様、平面的
な図形であり、残り2種類は立方体、円錐といった3次
元的な図形であった。チンパンジーもヒト同様、平面的
な図形ではパターン優位効果が確認されたが、チン
パンジーでもヒトでも3次元的な図形ではパターン優
位効果が見られなかった (ヒトの先行研究では同じ刺激
でパターン効果が見られている)。先行研究と本研究の
結果が一部一致しなかったのは、先行研究ではキーボ
ードを入力しているのに対して本研究ではタッチスク
リーンを入力デバイスとして用いているなどの実験手
続きの違いによるものかもしれない。今後、さらなる検
証が必要であろう。

5-8 物体ベースの注意の側面からみた視覚認知の霊長 類の起源

牛谷智一 (千葉大・文)

チンパンジーを用いた過去2年間の研究では、標的
の呈示に先立って手がかりを呈示し、両者が同じ物体内
に位置する条件の方が、別々の刺激に位置する条件よ
りも標的刺激への反応時間が短いことを確認した (物
体ベースの注意)。昨年度は、他の物体によって一部隠
蔽された物体であっても、隠蔽部分を知覚的に補間し
て、その物体全体への注意が賦活されることを明らか

にした。今年度は、これまでの成果を応用し、ヒト以外
の動物ではほとんど報告のない透明視を調べた。隠蔽
条件では、モニタ上に2つの長方形をX型に重ねて配置
し、さらに透明視条件では、ヒトにとって一方が透けて
向こうの片方が見えるような輝度配置にした。統制条
件では、透明視と同じ輝度配置ながら、輪郭の配置をず
らすことにより、長方形が分断されたように見える刺
激を呈示した。手がかりと同じ物体内に出現した標的
刺激への、チンパンジーの反応時間は、隠蔽条件と透明
視条件では短く、統制条件では遅かった。チンパンジー
が透明視を知覚し、透明視によって1つとなった物体全
体を賦活するような注意過程があることが示唆された。

6-1 貳猿信仰の記録とニホンザル古分布域との相関関 係

中村民彦 (NPO 法人ニホンザルフィールドステーショ
ン)

貳猿とは既に猿の頭蓋骨や手の骨を祀り、牛馬や家
族の無病息災と五穀豊稔等を祈願した信仰である。当
風習は東北全域に流布されていたが残留形態や口碑の
全容は充分に解明されていない。現在までの調査結果
に従来の事例も加えると青森県 3, 秋田県 27, 岩手県
30, 宮城県 5, 山形県 0, 福島県 0, の計 65 を確認
する事ができた。保存形態の内訳は頭蓋骨 59, 手 5,
足 1 である。頭蓋骨 59 の性別はオス 37, メス 22
である。年齢は 5 歳以下 3, 6 歳 ~ 10 歳 17, 10 歳
以上 39 である。頭蓋骨には「守護神」「縁起物」「薬用」。
手の骨には「豊作」「安産」等の口碑を聞き取りした。頭
蓋骨と手の骨には祈願の内容に使い分けが認められた
が足は不明である。捕獲に使用された狐具類に関して
は、鉄砲の他に「トラバサミ」や「猿つきヤリ」等も散
見された。また頭蓋骨を生業のマタギも存在し流通も
行われていた。この様にマタギも関与し集団狩猟によ
る捕獲が活発に実行されていた。明治 10 年ほどまで
北東北の全域にニホンザルが生息していた事が推測さ
れている。それが今では下北半島、津軽、白神、五葉山
地域個体群の部分的生息を確認するにすぎない。しか
もこの 3 県からは貳猿も発見されている。他にも食用、
薬用、衣料等にと捕獲された事象や口碑も少なくない。
古分布空白地域の調査研究は民俗学的側面からのアプ
ローチも重要と考え、更に検討を重ねる。

6-2 高崎山餌付けニホンザル個体群管理のための栄養 状態の把握

栗田博之 (大分市教育委員会)

個体群管理のため、成熟雌の体重と体長 (目からシリ
ダコ上端までの直線距離) の計測を進めてきた。分析が
終了している 2002 年から 2005 年までの値から求めた体
格指数 (体重 (kg) を体長 (m) の自乗で割ったもの、標
本数、平均±標準偏差) は、2002 年: 6, 32.7±1.16; 2003 年:
11, 32.2±2.51; 2004 年: 21, 32.6±2.40; 2005 年: 41,
32.7±2.34 であり、4 年間の分析に過ぎないが、顕著な体
格指数の変動は認められなかった。

年齢が 21 歳以上の個体などを除いて、体格指数によ
る翌年出産率の違いを調べた。49 個体の体格指数の範囲
は 28.6-37.3 であったため、33 未満と 33 以上とに分け
て出産率を比較したところ、前者では 21 個体中 13 個体